

## 世界津波の日国連イベント（ハイブリッド開催）

### 秋葉復興大臣ビデオメッセージ

（日本時間 2022 年 11 月 4 日 21:00-23:00）

ご列席の皆様、

復興大臣の秋葉賢也です。

日本政府を代表して、世界津波の日国連イベントでご挨拶申し上げます。

復興庁は、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた東北地方の一刻も早い復興を成し遂げるために設立された政府組織です。

私は、11 年半前の震災で多大な被害を受けた東北地方宮城県の生まれです。あの日、日本の沿岸部は大津波に襲われ、町は破壊され、多くの人々が亡くなりました。

本日は、本イベントのテーマである「津波に対する早期警報、初動対応」に関連して、震災当時の実話に基づく、津波から「命を救う」エピソードをご紹介します。

日本の東北地方にある釜石市では、これまでに何度も津波被害を受けてきた経験を踏まえ、震災前から、地域の防災教育として、「津波が起きたら『てんでんこ』だ」という教えを徹底していました。

『てんでんこ』とは、「ばらばらに逃げる 自分の命は自分で守る」ことで、津波が起きたら「お互いを信じてそれぞれ逃げることによって、結果として、生きて再会することができる」という教えです。

実際に、釜石市では子供たちも含めて、「津波てんでんこ」の教えを浸透させていたため、被災時に小中学生を含めて多くの市民がそれを実践し、一人一人が個々に判断して高いところに逃げることで、多くの命が助かったのです。

2015年に日本が「世界津波の日」の制定を主導したのは、一人でも多くの人々が津波に関する理解を深め、「地震が来たら逃げる」という習慣を身につけてほしいという願いによるものです。

こうした考えに基づく支援の一つとして、日本は2017年から、国連開発計画（UNDP）と協力して、アジア大洋州の国々で学校での津波防災教育や避難訓練を実施しており、これまで10万人以上の教師と子供たちが参加しています。

また、早期警報にかかる支援の一例として、日本はユネスコを通じて、インド洋における津波の早期警報システムの整備も支援してきました。最近では、インドネシアやバヌアツにおける津波警報の改善なども実施しています。

災害多発国である日本は、被害から得た知見やノウハウをこれからも各国と共有し、早期警報も含めたハード・ソフト両面での世界の強靱化と持続可能な開発、そして人間の安全保障に貢献してまいります。

私たちは津波の危険から逃れることはできませんが、知恵と努力により被害を最小限にすることは可能です。本日のイベントが、津波に関する一層の国際協力の促進と、とりわけ将来世代の津波への防災の意識を高めるための貴重な機会となるよう強く期待しています。

ありがとうございました。